

シリアの難民問題

－国際社会の一員として責任を持って行こう－

神田外語大学

国際コミュニケーション学科

朱 世演 (韓国)

1. はじめに

2013年8月、シリア政府が自国民に科学兵器を使ったというニュースが全世界に広がり、人々に衝撃を与えた。シリア政府は反乱を阻止するため化学兵器を使用したと疑われ、化学兵器は2014年半ばまでに廃棄する義務を負うことになった。

シリアは中東国家の中で王政国家を除き、40年間同じ政権(アサド)による独裁政治が行われている唯一の国である。シリアの内戦は、3年前、南部に位置しているダルアー(Daraa)で、10代の青少年たち何人かが壁に落書きをし、その罪で警察に拘束されたことから始まる。その背景は、政権の不正腐敗と高まる失業率の中、シリア政府がイラク難民100万を受け入れたことにある。低賃金で働く難民にシリア人の失業問題は悪化し、不満を抱いていたシリアの人々にもチュニジアのジャスミン革命が知らされ、やがてシリアにもアラブの春の波が伝わった。そして、捕まった子供たちの釈放を要求するデモが始まった。しかし政府は制圧するため自国民に無差別に発砲し、数人の死者を出した。結局、民主化闘争と共にシリア内戦が起こったのである。

21世紀最悪の流血事件と呼ばれるシリア内戦が3年目を迎えた。なくなった人の数は10万人を超え、国を逃れた人々も200万人を超えている。シリアの内戦は今も続き科学兵器使用以来シリア難民の数は増え続けている。更に、これから400万人がシリアを脱出すると見込まれている。2013年6月にUNHCR本部が発表した年間統計報告書によると、18年ぶりに強制移動の実態数が最大となった。

私はこの論文でまず、シリアの現在の難民の実情について検討し、次に、周辺国の状況について述べ、そして最後に、シリアの難民問題に対する提言を行う。

2. 難民の状況

シリアと面している国は、トルコ、ヨルダン、イラク、イスラエル、レバノンである。シリアと敵対関係であるイスラエルを除いた国々はシリア難民を受け入れている。UNHCRによると、9月現在難民登録をしたシリア難民、難民登録待ちのシリア人はレバノンに72万人、ヨルダンに52万人、トルコに46万4000人、イラクに20万人、エジプトに11万1000人いる。難民登録をしていない人数も含めれば、実際の難民数はさらに多いと考えられる。また、難民の半数は子供で占められ、およそ74万人が11歳を満たない子供で、難民の57%が17歳以下である。更に、OCHAの発表によると、ふるさとを離れた国内避難民が425万人、周辺国に避難している難民の数を足すと、国内難民の数は600万人を超えと言う。

3. 難民を受け入れた周辺国の状況

国境を越えている難民が増えるにつれ受入国には諸問題が起き、増えていくシリア難民により受け入れ国にも影響が及ぼされると見込まれている。9月4日、UNHCRと共にイラク、ヨルダン、レバノン、トルコの首脳たちが大量のシリア難民流入について議論し、シリア周辺地域に対する迅速な国際社会支援拡大を訴えた。ここでは、シリアの周辺国の状況について論じる。

3-1. レバノン

シリア難民が一番多く避難している国である。その理由としては、シリアとレバノンはそれぞれ別の国家でありながら一つの人民と言われるほど地理、歴史、政治、社会構造など緊密な関係を持っているからである。青山（2012）によると、レバノンはシリアの政権との関係の強化を通じて自国内での権力を安定化させようとした。

また、シリアの首都であるダマスカスと近いことも理由として考えられる。UNHCRによると、レバノンで難民登録をしたシリア難民と難民登録待ちのシリア人の数は、レバノンの人口の18%にあたる。しかし、未登録難民まで含めれば130万人に至り、人口440万人のレバノン人口の30%を占めると見られる。

3-2. ヨルダン

ヨルダンでは世界で第3番目に水が少ない国である。ヨルダンの難民にとって水はとても貴重で、長期的な水の確保が重要であろう。賃金の安いシリア人労働者により失業率が増加し、ヨルダン政府はシリア難民の入国を制限している。

一方、ヨルダンにあるザータリ難民キャンプでは、「シャンゼリゼ」と呼ばれる大通りが出てきた。約3000軒の店舗、580軒の料理屋があり、一時的な町が形成されている。

3 - 3. トルコ

トルコとシリアは友好的な関係を持っていたが、シリア内戦以来関係が悪化し、イラクとイスラエルの戦争が飛び火にするのではないかと国際社会に緊張感を与えた。UNHCRによると、トルコにはシリア難民のために20億米ドルを捻出、21箇所の難民キャンプでシェルター、医療サービス、安全保障などの支援を行っている。

3 - 4. イラク

去年、アブカマル国境を間にイラクのカイム(Al-Qaim)と近いシリアのアブカマル(Abu Kamal)でシリアの政府軍と反軍の戦いが続いたため、一時的に国境を閉鎖した。開放の後、国境の周辺地域に逃れていたシリア難民がイラクに避難してきた。ところが、イラク戦争による最大規模の人が移動していたイラク国内では、既に100万人もの国内難民がいて、UNHCRによれば、そこに16万人のシリア難民が流入、更に紛争地域から4万人がイラクに避難している。

4. 受け入れ国が抱える諸問題

難民のために周辺国の国境が開放されているのはとても重要なことである。しかし、シリアと面している周辺国だけではシリア難民を受け入れるには限界がある。既に周辺国の中でシリアの難民による社会的な諸問題が起こっている。

前章で述べたように、レバノンではシリア難民を一番多く受け入れている。しかし、レバノンの劣悪なインフラ、学校、保健システムとサービスに載せられた莫大な負担は、シリアの難民に対して敵対的な雰囲気を作り出すのではないかと懸念されている。また、報道によると、いくつかの国境を閉鎖しようという主張も出されている。もし、

このまま予想通りにシリア難民に対する敵対感が増していくと、レバノンとシリアの同盟関係、更には、中東の周辺国との関係さえ悪化されるのではないか。

ヨルダンのザータリ難民キャンプはヨルダンで4番目に規模が大きい都市に生まれ変わったのである。失った日常生活をとり戻そうとしているシリア人にとっては、町の形成は絶望から脱げ出す命の光のようであろう。しかし、ヨルダンの人々にとってはどうだろう。仕事を失ったヨルダン人から見ると、シリア難民がこのままヨルダンに定住してしまうと失業問題はもっと悪化するだろうと考えるのもおかしくないだろう。

周辺国は増えている一方のシリア難民問題に対して、国を整えるための新たな政策や法律をつくるべきである。しかし、問題の解決のためには周辺国では足りない。資源も、インフラも周辺国と国連の支援だけでは難民を救えない。更に、シリア難民は周辺国を通過してヨーロッパに向かっている。国際社会の絶対的な支援が必要である。国連は世界に対し史上最高の50億ドルの支援金を呼びかけたが、UNHCRによると、9月現在、難民に対し必要最低限の支援を行うための予算額の47%しか集まっていない現状である。

4. おわりに

本論文では、増加していくシリア難民の現状について検討し、難民を受け入れている周辺国の状況を述べ、それに対する問題について考察した。

中東は宗教、理念、歴史、人種、利益などあらゆる関係が絡まれている地域である。東アジアに住んでいる我々にとって中東の国を身近に感じるのは難しいだろう。ここにいる我々がシリアなど離れている国際社会問題に触れる機会はメディアしかない。筆者もインターネットの募金の広告やニュースを見なかったらシリアという国の存続を脅かす今の問題について興味をもてなかったと思う。メディアには、これからもシリアの問題について知らせていく義務がある。

特に、幸せぼけていると言われている日本ではもっとその必要があると考える。日本は、国内で他国との戦争が起こったことのない世界で数少ない国である。日本で勉強している韓国人留学生として、日本にきて日本人の幸せボケの意味が分かった。

筆者の母国である韓国では、北朝鮮との緊張感、戦争は終わっておらず、休戦状態であるということに韓国の人々は危機感を抱いている。とはいえ、戦争の経験のない

人々に対しては、たかが 60 年前のことといっても忘れがちである。しかし、日本人の幸せボケは、まるで世界がどこでも平和であると思っているような印象を受けた。幸せボケにより他の国の実情に目が向かなかつたり、今の幸せをありがたく思えないのは問題になるのではないか。

難民問題は、その地域の人々の力では解決できない。政府、企業だけではなく、個人レベルの支援がなければ、シリアを含め周辺国の未来も保障できない。ここにいる我々のように平穏に生きていく基本的な権利、自由さえ失われている人々が今大勢いる。ますます増えていくシリアの難民を救うためには、世界の人々は国際社会の一員として責任を持っていくべきだと主張する。

参考文献

青山弘之「混迷するシリア」岩波書店 2012 年

UNHCR Japan

「【UNHCR-UNICEF 共同プレスリリース】シリア・難民の子ども 100 万人を超える」

<http://www.unhcr.or.jp/html/2013/08/pr-130823.html>、(2013 年 8 月 22 日)

「【UNHCR-WFP 共同プレスリリース】UNHCR、国連 WFP のトップがイラクを訪問 シリア難民の受け入れに謝意を表明」

<http://www.unhcr.or.jp/html/2013/08/ws-unhcrwfp.html>、(2013 年 8 月 28 日)

「【UNHCR-WFP 共同プレスリリース】UNHCR、国連 WFP のトップがイラクを訪問 クルド人自治区におけるシリア難民受け入れを称える」

<http://www.unhcr.or.jp/html/2013/08/pr-130829iraq.html>、(2013 年 8 月 30 日)

「【プレスリリース】シリア危機：シリア難民 200 万人を超える」

<http://www.unhcr.or.jp/html/2013/09/pr-130903.html>、(2013 年 9 月 3 日)

「【共同プレスリリース】UNHCR とシリア周辺国：シリア周辺地域への支援強化を国際社会に要請」

<http://www.unhcr.or.jp/html/2013/09/pr-130904.html>、(2013 年 9 月 5 日)

AFPBBNews 「都市化するシリア難民キャンプ、国連への電気代請求は月 5000 万円」

<http://www.afpbb.com/articles/-/2956634?pid=11053331>、(2013 年 7 月 22 日)

「シリア難民国境間で動けず」読売新聞(朝刊)、2013年9月25日6ページ